

デザセン2023

探究型学習の成果発表全国大会
〔応募要項〕

～先生のためのデザセンガイド～

探究型学習～成果発表の場として～

近年、探究型学習やアクティブラーニングなどが教育に取り入れられ、大学入試においても大きな転換期を迎えています。

ご案内する「全国高等学校デザイン選手権大会」は、デザインと称していますが造形表現のテクニックを競うものではありません。これまでの知識詰め込み型の教育だけではなく、コトの本質に目を向けて自ら考え解決方法を提案できる教育実践の場として、探究型学習やアクティブラーニング、デザイン思考を用いた学習の成果発表としても活用いただいています。

既に「総合的な探究の時間」に取り組まれている場合は、今年度の取り組みのほか、前年度の成果を応募していただいても結構です。新たに取り組む始める場合は、応募企画書の項目を参考に授業を進めることができます。

デザセンとは…

東北芸術工科大学が主催する、高校生を対象にした問題解決・提案型の全国大会です。

高校生が自らの視点で、社会や地域、身近な暮らしの中から問題点を見つけ出し、その解決策を提案するものです。何に取り組むべき問題として発見するか、それをどうとらえて探究するか…。そして、いかに画期的な解決策を考えだし、その一連の内容をしっかりと伝達できるか…。

とても難しいことですが、毎年、高校生らしい視点で数多くの提案が寄せられます。高校内では、探究型学習や課題研究の授業などで取り組み、例年、全国から約 1,000 件もの企画書による応募があります。一次、二次審査を通過した 10 チームが決勝大会に進出し、公開プレゼンテーションに臨みます。決勝大会では、教育やクリエイティブなど多様な分野で活躍している審査員との質疑応答により、問題発見の視点とその分析力、探究力、企画力、表現力などを総合的に審査します。

＊決勝大会の様子は、ニコニコ生放送で配信されるため、アーカイブによりご覧いただくことができます。

2021 年からはオンライン開催に！

デザセンは 1994 年の第 1 回大会から今年で 29 回目を迎えます。2021 年度からはオンライン開催に進化し、一次審査から決勝大会まで全国からご参加いただけるようになりました。

Point1 探究型学習で取り組んだ成果をそのまま応募できます。

Point2 二次審査はパネル審査に替えて、アイデアをまとめた資料データを提出。

Point3 決勝大会をオンライン形式で開催します。

1 次審査 | 応募された提案書の束



2022 年度決勝大会でのプレゼンテーション



教育ツールとして最適な 2 つの特徴

● デザセンに取り組むことで「学力の 3 要素」が身につけられます。

従来の習得型の学習と合わせて、問題発見、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力などが養えるほか、チームで取り組むことにより多様性、協働性が身につき、総合的に「自ら学び自ら考える力」を育成することができます。

● 探究型学習をはじめ、各教科の教育ツールとして、応募提案書が活用できます。

応募に必要なのは、2 枚の提案書のみです。授業で作成した提案書をそのまま転記して応募することができます。また、デザセン提案書をベースに授業に取り組むこともできます。

デザセンの教育的効果 ～指導教諭インタビュー～

デザセンをカリキュラムに組み入れて指導されてきた先生方のインタビューを、公式 HP に掲載しています。デザセンは、進学校でも実業系高校においても活用いただけます。



山形県立山形西高校 | 武田英幸 教諭（数学）

『生徒と教師が1対1で対話し考えを深める』

[進学校からデザセンへ初挑戦] *本稿は HP に掲載している記事を抜粋したものです。

私がデザセンを知ったのは 10 年ほど前。前任高校で教えていた時からずっと面白い企画だなとは思っていましたが、学習として取り組む時間をなかなか得られない状況でした。初参加に踏み切ることができたのは、赴任した山形西高等学校で 1 年生を担当することになり、総合学習の時間の課題として取り入れることができたからです。

高校に入学したばかりの新 1 年生が「社会を見つめ、課題解決するデザインを考えていく」という課題は生徒にとって大きいもののように思われますが、「高校の学習は中学までと違う」ということを体感できるきっかけになりました。社会に目を向け、身近な問題を解決するアイデアを考えましょう、と呼びかけても主体的な学びの活動をプログラムするのは教師にとっても難しい面があるので、デザセンは本質的な学びへの導入として簡易さもありません。

[1 対 1 の対話で生徒の考えに触れる重要性]

指導においては、発想法の練習までを少し行いましたが、アイデア自体は生徒に任せました。世の中にある何かと何かを組み合わせて新たに発想しよう、という指針を立てると、生徒はデザセンのホームページにあるいくつかのテーマ例から着想を得ていたようです。指導に特別なノウハウがあるわけではないので、生徒から出てきたアイデアを添削指導し面談をしながら少しずつ提案を形にしていきました。

最初に提出された企画書は、予想以上にどうしようもないものも多くて（笑）。それでも「これはどういうことなの？」と聞いたり、メンバー同士で話をしたりしていくと、次に持ってくるものは確実に深みが増しているんですね。それは、自分の提案について別の人の視点を交えてもう一度考えてみる、というプロセスができていく証だと感じました。

生徒と教師が1対1で対話し考えを深める学習の1つに小論文指導があります。しかしそれは3年生になってから行うので、早い段階で生徒の考えに触れられるというのはいいですね。現在、総合学習の時間では個人研究や論文作成を進めていますが、デザセンに参加した生徒たちは、そういった課題に取り組む時も抵抗なく考えを進めていっているように思います。

【進学校がデザセンに取り組む意義】

初出場となった『VR Googleで見つめるWORLD』（デザセン 2017 年入賞提案）は、アニメなどの仮想世界を体感するのではなく、現実世界を見てみようという発想が評価されて決勝大会に進出することができました。VR Googleの使い方を考える、というより、もともと食料問題に興味ある生徒がいたので、それをより多くの人に知ってもらうにはどうしたらいいか、という考えを進めた結果、VR という技術と結びついたものです。

彼女たちが決勝大会を通して得たのは、自分たちが伝えたいことはある一面から見た確かさ、正しさであり、別の視点から見ることの大事さに気づいた点だと思います。そのためには、多くのものごとに触れ、感じ、考えていく必要がありますが、高校の中だけではそういったことを感じる機会を得るのは、難しいものです。当校は進学校なので、生徒にとっても教師にとっても大学受験が大きな存在感を持っています。前述したような多様な視点や考え方は、大学入学後に身につければいいからまずは勉強を、という風に私も考えていました。しかし現在、大学側から求められる学力も少し変化してきているように感じています。問題を発見する力、グループで協力して成し遂げる力、発想力、提案力、そういった能力を持った人が社会には必要で、入試で直接問われることはないものの大学としても意識しているようなのです。県内の進学校に、思考力・判断力・表現力を探究型学習によって育む探究科が設置されたのもそういった流れの1つでしょう。

【教師自身が社会に目を向け、豊かな学びを実践】

我々はどうしても専門教科の枠の中で教えることになります。しかし大切なのは、数学を教えることではなく、数学で何を教えるかです。普段の授業でそれが実践できていればいいのですが、難しさを感じている場合、少し視点を変えてデザセンに取り組んでみると良い刺激になるように思います。

教師は生徒に「外に出て学びなさい、社会に目を向けなさい」と言いながらも、自分たちは学校の中に入ることが多いのではないのでしょうか。デザセンに参加して私が感じたのは、我々教師も社会の中に入っていないといけない、ということ。今回はアイデアを出して終わりにしたものがほとんどでしたが、社会で実践してみるところまでやれると、学びはさらに豊かになっていくでしょう。今後は、生徒たちがもっと深く考え、広い視野を持てるような機会を、少しでも作れるような活動をしていきたいですね。

デザセンの体験談や取り組みを紹介

他にも、デザセンを教育に取り入れられた先生方のインタビューや、提案書の参考および作成のためのアドバイスなどの記事、動画を公式HPに掲載しています。取り組み方や生徒さんへの波及効果など、これから取り組まれる先生方のご参考として、ぜひご覧ください。

デザセン公式HP | <https://dezasen.jp/>



提案書フォーマットの特徴

デザセンの応募提案書はとてもシンプルです。学校で使用されているワークシート等と様式が違って、「問題の把握」「課題の設定」「解決策の提案」という3つのポイントに絞って記載する様式になっていますので、探究型学習や課題研究の授業で取り組まれた結果を転記して応募いただけます。またデザセン提案書をベースに授業を進めていただくこともできます。

提案書 1 | デザセン2023

1.提案タイトル (テーマ)

*一見で提案内容がわかりやすく、伝わりやすいものを考えてみましょう。
*漢字、当て字、外国語には「よみがな」を記入してください。
*パソコンで入力・変更できない記号や絵文字等は使用しないでください。

よみがな：

2.問題の把握

①問題 (理想と現実のギャップ) は何なのか。

A.着眼した事柄について本来あるべき姿 (理想)

B.現状はどうなのか (現実)

C.問題→[理想 (A) と現実 (B) のギャップ]

問題

*その問題について調査・分析したことなど

* 提案書はデザセン公式 HP にてデータをダウンロードできます。

* 前年度に取り組まれた授業成果をご応募いただいても結構です。

わかりやすく端的な表現や、読む人を引き付けるユニークなタイトル

身の回りの生活や社会全般に目を向けて、気になっている事柄や問題だと感じている事柄、不便だと感じている事柄など、まずはひとりでも多くの事柄をあげます。それらをグループの中で出し合って共有します。

そして、みんなで出し合った事柄について、「本来のあるべき姿」と「現状」を比べます。そのギャップが「問題」となります。

提案書 2 | デザセン2023

3.課題の抽出と設定

上記 C.の問題を解消するために、やるべき事は何か

4.解決策

上記の課題を解決するための具体的なアクション (アイデアや手段・方法)

調べてみた問題を解消するためには、どんなことをしなければならないのか (していかなければならないのか) を挙げて、課題を浮き彫りにします。

抽出した課題を解決するためのアイデアを出し合います。メンバーの提案を否定することなく、質よりも量を重視してたくさんのアイデアを出し合います。

これ以上ないくらいに出し尽くしたら、アイデアを絞ったり、複数を組み合わせるとより良いアイデアにブラッシュアップさせるなどして完成させます。

* 既成のアイデアではないか確認

* 図やイラストを用いてもかまいません。